

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2023 年度・第 1 回

2023 年 7 月 27 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価をする。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切か
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切か
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

2. 2023年度 第1回学校関係者評価委員会

2022年度における各学科の評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

- ・日時：2023年7月27日（木）17:00～18:00
- ・場所：読売理工医療福祉専門学校 301教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【出席委員と学校側関係者】

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部 俊一：理工専校友会会長
- ・本田 章良：保護者（欠席）
- ・杉田 明治：地域住民
- ・中村 孝之：団体等（欠席）
- ・羽場 宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛 信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・伊藤 大輔：企業等・臨床工学系学科
- ・大庭 尚子：企業等・介護福祉学科

【学校側委員（オブザーバ参加含む）】

- ・松井 敏宏：理事長
- ・中村 宏之：法人本部長
- ・中條 学：事務局長
- ・水落 清治：校長兼電気電子学科長
- ・高橋 栄樹：放送映像学科長
- ・小川 貴之：建築系学科長
- ・沢田 雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科長
- ・増田 孝博：クロスメディア情報学科長

4. 配布参考資料等

2023年度 第1回学校関係者評価委員会 報告事項ならびに取組み事項

資料1 2023年度「教育活動その他の学校運営」

資料2 2023年度「学科状況報告」

資料3 2022年度「自己評価報告書」

5. 報告事項

①昨年度の重点項目の報告

●除籍退学率 10%以下を目標として学生の指導にあたる。

除籍退学者は 68 名（除籍 4 名・退学 64 名）、除籍退学率は 11.54%（昨年度 9.41%）と目標を達成することができなかった。退学理由は 47.8%が進路変更と半分近くになっている。進路変更での退学は、希望職種の変更や学習意欲の低下からの進路変更が多い傾向となっている。夜間部の学生は、現在就いている仕事の都合（部署変更、忙しくなった）によるものが多く、学校としての対応は難しいところであった。

2023 年度は、引き続き面談機会を増やす等のこまめな学生指導を組み立て、除籍退学率を減少させたい。

●就職希望者の全員が就職できるように、就職指導の強化を行う。3 月末の就職内定率を 90%を超えるようにする。

新型コロナウイルス感染症の影響が一段落し、求人数も増加の傾向になったこともあり、2022 年度の最終就職率は 92.9%に達した。希望者に対しては 100%を達成できるように就職指導にも力を入れたい。

②学校の状況

- ・2023 年度の入学者は 231 名で、昨年の 287 名を下回った。

③卒業生数と就職状況

- ・新型コロナの影響が改善され、求人状況も良くなったこともあり、結果としては 3 月末現在 91.9%の就職率であった。

④2023 年度の学校行事等スケジュール

- ・5 月 25 日 ナイター招待（巨人対横浜）
- ・6 月 9 日 スポーツ大会（ボウリング大会）
- ・10 月 27 日～28 日 学園祭

6. 委員からの意見

- ・入学者数が減っているのに、コロナの時に制限されていたことを積極的に行った方が良い。
- ・来年度の入学者を増やすために、地方への募集にも力を入れるべき。
- ・人間力が大切で、挨拶を忘れないようにすればコミュニケーション力も身に付く。就職先でも挨拶をしていれば、会社としても教育しやすいはずである。
- ・実践的な実習を積極的に行う方が良い。
- ・放送映像学科では、ドローンの操縦を学ぶのも良いと思う。
- ・「退学率 10%以下、就職率 95%以上」の目標に向かって頑張ってもらいたい。
- ・就職率に対しては、各学科とも目標を達成していてとても評価出来る。
- ・除籍退学率はやはり、授業ついてこれない学生へのフォローとモチベーションアップがカギとなるため、就職体験などでやる気を上げてからの授業内容の見直しや資格取得の推進を行ってほしい。
- ・様々な背景をもった学生に対して、学習内容をどのように理解させ、より質の高い卒業生を出していくかが課題です。

7. 委員からの評価と意見（評価点：5 点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝不十分である）

- 昨年度の重点目標 ①除籍退学率の目標を 10%以下とするの評価（3.67）

- ・入学当初から出席不良者はわかるはずもなく、目的意識を強く持っている人を見極めたい。
- ・除籍退学率が増えてしまったことに関し、進路変更や働いている学生の仕事が忙しくなったなどの理由があった。進路変更に関しては、やはり勉強についていけない事が背景にあると思われるため、そのような学生へのフォロー体制(補習など)を検討してほしいと思う。
- ・退学となる過程では、様々な教員のフォローが必要と考えます。
- ・教員は、十分な時間等を必要とし、エネルギーを使います。
- ・退学は不可抗力の場合もありますが、各学科とも、努力した結果だと思えます。
- ・近況の全体の退学率をコロナ禍の中で 11.5%でおさめられたのは、先生方のご努力だとおもいます。
- ・経済的にはサポート体制が充実している。入学時の面談が重要かと思われます。
- ・入学前に学力の確認して対応する。
- ・専門学校なので進路が決まって入学しているはず。

● **昨年度の重点目標 ②就職率 90%以上の評価 (4.17)**

- ・90%以上を達成してすごいと思います。
- ・各学科とも就職希望者の就職率はよかったと思う。今は就職する側が有利な社会状況もあるため、出来ない子へのフォローや面談を行い、100%を目指してほしい。
- ・求人は十分あると考えられますのでよい結果です。
- ・22年度 92.3%の良い就職率は、色々ある中で学校の力だと存じます。
- ・TVディレクター学科の入学時の面談が大切ですが、入学人数も重要です。
- ・どの業種でも求人不足で就職率 90%以上は目標にしては低いと思う。

● **2022年度 教育活動その他の学校運営の評価 (4.00)**

- ・大学への進学が増えるなか、専門学校に望むものは、高い専門性である。即戦力となれるような専門性を軸にコミュニケーション力といった人間性やプレゼン能力等を養っていけるような教育をしてほしいと思う。
- ・地域社会との学生を参加させたコミュニティーの推進、地域への学校催事のPR。座学とバランスのとれた実習が求められる。学生とのコミュニケーションは特に必要。
- ・コロナ感染症が5類に移行して、通常授業に戻った事は良かった。コミュニケーション不足が解消されて良かった。今後はリモートも併用していろんな学生に対応出来るようにしてほしい。

● **学校運営に関する全体の評価 (4.00)**

- ・様々な学生行事なども行えるようになり、学校の雰囲気も上がってくると思うため、行事やイベントは是非このまま行ってほしい。入学者の増加に向けては、大学ではなく専門を選ぶ理由は、勉強をしっかりと見てくれそうだということと、金銭面だと思うため、低い学力からの講義内容や、奨学金を前面に出して活動してほしい。
- ・新入生を確保すること、退学者を少なくすることに今まで以上に取り組み「この学校に入学してよかった」と学生が思えることを運営の中で折り込んでいくことも大切なのかもしれません。
- ・留学生を含め、ウィズコロナで改善すると思われるが、今も行っていらっしゃると思いますが、たとえば、学校の良さを知っている留学生を含む卒業生へのアプローチなどリクルートの強化。
- ・学校運営、学生教育、共に全職員が改善に努力している。
- ・コロナ等で留学生の入学者数が減少したにしても定員不足にはならないように。ホームページ・オープンキャンパス等ではなかなか認知されない。OBによる紹介等積極的に取り組んでほしい。

● 2022年度の学校運営・教育活動に関する意見

- ・入学者を増やす取り組みを強化してほしいと思う。具体的には指定校推薦の基準の見直し。あとは、学力に自信がない学生でもしっかりと資格の取得や就職まで導きますといった事をアピール出来たらと思う。
- ・大学教育との差別化を明確にする必要性を感じます。
- ・就職先で卒業生がスムーズに生き生きと活躍できているか、卒業生からの評価を少し試してみてもよいかと考えます。
- ・今年、他の専門学校に求人募集で伺った時に希望する学生が多く、定員を増やし教室も確保したと聞きました。原因を尋ねると建築の専門学校が九州には少ないからと言っていました。他に原因があると思います。

8. 2023年度の重点項目

退学者を減らすためにも、欠席が目立ち始めた学生へのこまめな指導を行い、学生の情報を共有し対応に当たる。就職率の更なる向上を目指し具体的な目標値を設定し、次の2点に重点を置きたい。

- ①昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を10%以下とする。
- ②就職希望者の全員が就職できるように、就職指導の強化を行う。3月末の就職内定率は95%を超えるようにする。

9. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上